

No	245	事務事業評価票		所管部長等名	教育部長 北岡 博					
評価対象年度		平成 24 年度		所管課・係名	博物館未来の森ミュージアム 学芸係					
				課長名	福原 透					
(Plan) 事務事業の計画										
事務事業名	博物館特別展覧会事業(夏季)			会計区分		一般会計				
				款項目コード(款-項-目)		09	—	07	—	05
				事業コード(大-中-小)		02	—	41	—	18
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	基本目標(章)		第2章 郷土を拓く人を育むまち							
	施策の大綱(節)【政策】		文化のかおり高いまちづくり							
	施策の展開(項)【施策】		伝統の継承・活用と八代の文化の創造							
	具体的な施策と内容		芸術・文化活動の推進							
事務事業の目的	歴史と文化情報を発信する博物館は、幅広い年齢層に親しまれることが求められる。それぞれのニーズに対応するため、多彩な展示活動を展開し、これに答えていく。									
事務事業の概要 (全体事業の内容)	八代地域の歴史・文化に対する再認識を目指し、特に夏期休暇中の児童生徒への教育的配慮に重点を置いた企画・内容の展覧会を中心に開催する。									
根拠法令、要綱等	社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則									
実施手法 (該当欄を選択)	● 全部直営		一部委託		全部委託		法令による実施義務 (該当欄を選択)		義務である ● 義務ではない	
事業期間	開始年度	合併前			終了年度	未定				

(Do) 事務事業の実施										
評価対象年度の事業の内容										
対象 (誰・何を)					内容 (手段、方法等)					
市民(特に夏期休暇中の児童生徒)並びに市外からの来館者					「かたちのヒミツ—弥生時代から現代までの道具—」 会 期 平成24年7月20日(金)～9月2日(日) 開館日数39日					
成果目標 (どのような効果をもたらしたいのか)					〇八代地域で使用されてきた弥生時代から現代に至る、さまざまな道具の実物を展示。会場内の展示解説に、いろいろなクイズを織り込みながら、夏期休暇中の児童生徒およびその保護者に楽しく学んでもらう。 〇会期中に実技講座1回、幼児や児童向けに博物館探検「くまモンと遊ぼう」を1回開催、会期を通じて「博物館で妖怪を探せ！」を開催し、クイズの正解者にオリジナル妖怪バッジをプレゼントする。					
人が有史以来生み出して来たさまざまな道具について、その形状に隠された人類の工夫、智恵の痕跡を、実物の農具や工具のなかに探る。										
事業開始時点からこれまでの状況変化等										
開始当初は、成人向けに郷土の芸術家シリーズなどを開催することが多かったが、近年は、児童生徒向けに地域の歴史・文化を再確認する企画を、さまざまな遊びの要素を取り入れながら開催している。県南に数少ない博物館施設の中心として、次代を担う子どもたちの育成に資するよう、学校現場や博物館協議会等の指導・助言を取り入れながら努めている。										
コスト推移					24年度決算	25年度予算	26年度見込	27年度見込	28年度見込	
総事業費 (単位:円)					4,004,284	5,951,000	4,150,000	4,150,000	4,150,000	
事業費(直接経費) (単位:円)					854,284	1,191,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
財源内訳	国県支出金				0	0	0	0	0	
	地方債				0	0	0	0	0	
	その他特定財源				322,160	640,000	350,000	350,000	350,000	
	一般財源				532,124	551,000	650,000	650,000	650,000	
人件費					24年度	25年度見込	26年度見込	27年度見込	28年度見込	
概算人件費(正規職員) (単位:円)					3,150,000	4,760,000	3,150,000	3,150,000	3,150,000	
正規職員従事者数 (単位:人)					0.45	0.68	0.45	0.45	0.45	
臨時職員等従事者数 (単位:人)					0.08	0.25	0.00	0.08	0.00	
事業の活動量・実績の数値化	指標名				単位	24年度実績	25年度見込	26年度計画	27年度計画	28年度計画
	①									
	②									
	③									
〈記述欄〉※数値化できない場合 展覧会活動は、文化財保存の見地から、会期日数は1企画につき30日間程度を限度としており、際限なく延長することはできない。また、展示作品の点数は、展示作品のジャンルにより大きく異なるため、一概には比較できないなど、本事業について、活動指標を設定、数値化することは困難である。										

もたらそうとする効果・成果の数値化	指標名		指標設定の考え方	単位	24年度実績	25年度見込	26年度計画	27年度計画	28年度計画
	①	展覧会総入館者数	入館者の総数が、成果目標の達成度を測る、ひとつの目安となると考えられるため、指標として設定。	人	2248	2500	2500	2500	2500
	②								
	③								
〈記述欄〉※数値化できない場合									

(Check) 事務事業の自己評価					
事業実施の 妥当性	①	【計画上の位置付け】 事業の目的が上位政策・施策に結びつきますか	A 結びつく B 一部結びつく C 結びつかない	A A A	(現状分析等) ○八代に関わる歴史・文化には、市民誰もが知っているようで知らないことがたくさんある。これらについて、正しい知識を得ることは、郷土愛を育み、「文化のかおり高いまちづくり」を進めるために、ますます重要になっている。 ○八代の歴史・文化に関する企画は、八代が取り組むべきことである。また、このような事業の開催には、きわめて専門的な知識・経験と、良好な展示環境を必要とし、同時に、事業としての営業益は望めないため、民間の参入は期待できず、それらを備えた市が事業主体となる必要がある。
	②	【市民ニーズ等の状況】 市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていませんか	A 薄れていない B 少し薄れている C 薄れている	A A A	
	③	【市が関与する必要性】 市が事業主体であることは妥当ですか(国・県・民間と競合していませんか)	A 妥当である B あまり妥当でない C 妥当でない	A A A	
活動内容の 有効性	①	【事業の達成状況】 成果目標の達成状況は順調に推移していますか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A A A	(現状分析等) 本事業は、児童生徒が夏期休暇中の自由研究の素材に利用するなど、有効活用された。地域学習に始まり、歴史や文化に興味を持った人材が、徐々に育ちつつあり、今後も継続していく必要がある。
	②	【事業内容の見直し】 成果を向上させるため、事業内容を見直す余地はありますか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A A A	
実施方法の 効率性	①	【民間委託等】 民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A A A	(現状分析等) ○指定管理者制度は、地域における展覧会活動、とくに教育的配慮を持った、子ども向けの企画には採算性・集客性の面から特になじまない。 ○講座・講演会などの開催については、教育普及活動などと連携させ、コストの削減や、より有効な動員計画を検討していきたい。 ○平成23年度に本事業開催期間中の入館料を見直し100円値上げしており、現在の経済情勢を考えると、これ以上の値上げは難しい。
	②	【他事業との統合・連携】 目的や形態が類似・関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	B B B	
	③	【人件費の見直し】 非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費の削減は可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A A A	
	④	【受益者負担の適正化】 受益者負担に見直しの余地はありますか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A A A	

(Action) 事務事業の方向性と改革改善				
今後の 方向性 (該当欄を選択)	不要(廃止)	(今後の方向性の理由)		
	民間実施 市による(民間委託の拡大・市民等との協働等) 市による実施(要改善) ● 市による実施(現行どおり) 市による実施(規模拡充)	博物館の展覧会、特に教育的配慮において企画されるものについては、博物館の専門職員、教育現場の連携による十分な協議と準備が必要である。採算性等と併せて考えると、民間に依存すれば、ほとんど開催は困難である。しかしながら、本事業は、市の次代を担う児童生徒の育成のため重要な役割を果たしているため、今後とも継続して、市による実施が求められるところである。		
改革改善内容	今後の改革改善の取組と、もたらそうとする効果			
	学校現場との連携をいっそう強め、地元の各種団体、企業等の協賛を仰ぎながら財源の開拓にも留意しつつ、子どもから大人まで、わかりやすく、ためになる企画の開催に努めていきたい。			
改革改善による期待成果				
成果	コスト			外部評価の実施 有：外部評価(市民事業仕分け) 実施年度 平成22年度 (委員からの意見等)
		削減	維持	
	向上		●	
	維持			
	低下			

No	242	事務事業評価票		所管部長等名	教育部長 北岡 博					
				所管課・係名	博物館未来の森ミュージアム 学芸係					
				課長名	福原 透					
評価対象年度	平成 24 年度		(Plan) 事務事業の計画							
事務事業名	博物館特別展覧会事業(秋季)			会計区分		一般会計				
				款項目コード(款-項-目)		09	—	07	—	05
				事業コード(大-中-小)		02	—	41	—	15
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	基本目標(章)		第2章 郷土を拓く人を育むまち							
	施策の大綱(節)【政策】		文化のかおり高いまちづくり							
	施策の展開(項)【施策】		伝統の継承・活用と八代の文化の創造							
	具体的な施策と内容		芸術・文化活動の推進							
事務事業の目的	八代の歴史・文化に関する館独自の調査研究に基づき、真の八代の姿をいきいきと描き出し、それを、さらに日本史全体の流れの中に位置づけて、市内外に広く紹介する。									
事務事業の概要 (全体事業の内容)	八代の歴史・文化に関するさまざまな事象について、現存する資料の調査・研究を徹底的に行い、それらを各地より借用した関連資料とともに展示、新しい八代の歴史・文化像を内外に提示する。独自に編集した展覧会図録を刊行、会期中に内部・外部の講師による特別講演会を開催する。									
根拠法令、要綱等	社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則									
実施手法 (該当欄を選択)	● 全部直営		一部委託		全部委託		法令による実施義務 (該当欄を選択)		義務である ● 義務ではない	
事業期間	開始年度	合併前			終了年度	未定				

(Do) 事務事業の実施										
評価対象年度の事業の内容										
対象 (誰・何を)		内容 (手段、方法等)								
市民(幼児から高齢者まで)並びに市外からの来館者		「入城400年記念 八代城主・加藤正方の遺産」 会 期 平成24年10月26日(金)～12月2日(日) 開館日数33日 ○博物館では、平成22年度に、広島市在住の加藤正方のご子孫より、加藤家関係資料134点の一括寄贈を受けた。このなかには、正方に関する当時の第一級の資料が含まれており、その調査研究によって、はじめて正方の人生、八代との関わりについて多くの事実が判明した。本事業では、これら加藤家伝来資料を中心に、県内外、各地に伝えられた正方関係の文書・歌書・絵画・茶器などを集めて一堂に公開、その生涯をたどった。 ○関連事業として、特別講演会を2回、あわせて(財)宮嶋利治学術財団・八代市立博物館友会の協賛により、正方ゆかりの「連歌」についての入門講座を1回、熊本県下ではじめての連歌の興行を行った。 ○展覧会出品作品、最新の研究成果をまとめた展覧会図録を刊行。								
成果目標 (どのような効果をもたらしたいのか)		市街地の中心部に位置する八代城(松江城)を築いた加藤正方(1580～1648)は、今日の八代の発展の基礎を築いた有能な政治家にして文化人である。しかし、その生涯はなぞに包まれ、ほとんど解明されていなかったといっても過言ではない。八代の江戸時代の扉を拓いた正方の歩みと、当時の政治・文化の様相について、市民に広く正しく認知してもらう。								
事業開始時点からこれまでの状況変化等										
地元の歴史・文化について、館独自の地道な調査研究により深く掘り下げて、「八代」の実像を解明・提示する本事業は、本年度で22回目を迎えた。この間、はじめて明らかとなった事象は数多く、同時に、日本の歴史上、第一級の資料に、市民が、八代に居ながらにして接する機会をも提供してきた。本事業は、近年、八代という地域の枠を超えて、熊本県内で最も内容の充実した展覧会のひとつとして広く認識されるに至っている。										
コスト推移					24年度決算	25年度予算	26年度見込	27年度見込	28年度見込	
総事業費 (単位:円)					15,520,938	17,585,000	11,550,000	16,550,000	16,550,000	
事業費(直接経費) (単位:円)					7,330,938	9,255,000	3,500,000	8,500,000	8,500,000	
財源内訳	国県支出金				0	0	0	0	0	
	地方債				0	0	0	0	0	
	その他特定財源				1,434,109	2,434,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	
	一般財源				5,896,829	6,821,000	2,000,000	7,000,000	7,000,000	
人件費					24年度	25年度見込	26年度見込	27年度見込	28年度見込	
概算人件費(正規職員) (単位:円)					8,190,000	8,330,000	8,050,000	8,050,000	8,050,000	
正規職員従事者数 (単位:人)					1.17	1.19	1.15	1.15	1.15	
臨時職員等従事者数 (単位:人)					0.33	0.33	0.33	0.33	0.33	
事業の活動量・実績の数値化	指標名				単位	24年度実績	25年度見込	26年度計画	27年度計画	28年度計画
	①									
	②									
	③									
〈記述欄〉※数値化できない場合 展覧会活動は、文化財保存の見地から、会期日数は1企画につき30日間程度を限度としており、際限なく延長することはできない。また、展示作品の点数は、展示作品のジャンルにより大きく異なるため、一概には比較できないなど、本事業について、活動指標を設定、数値化することは困難である。										

もたらそうとする効果・成果の数値化	指標名		指標設定の考え方	単位	24年度実績	25年度見込	26年度計画	27年度計画	28年度計画
	①	展覧会総入館者数	入館者の総数が、成果目標の達成度を測る、ひとつの目安となると考えられるため、指標として設定。	人	3511	5000	3500	4000	4000
	②	入館者の理解度(会場内設置のアンケートに、「よかった」と回答した人数/全回答者数)	アンケートに、「よかった」と回答した人は、展覧会の内容について、ほぼ理解できたと考えられるところから、理解度を示す指標として設定。	%	94.6	95	95	95	95
	③								
〈記述欄〉※数値化できない場合									

(Check) 事務事業の自己評価					
事業実施の妥当性	①	【計画上の位置付け】 事業の目的が上位政策・施策に結びつきますか	A 結びつく B 一部結びつく C 結びつかない	A	(現状分析等) 本事業は、市民のみならず、市外からの評価も高く、年々、大きな期待を寄せられている本館の主要施策であり、「文化のかおり高いまちづくり」の基盤ともなる事業である。同時に、国宝や重要文化財といった取り扱いに最新の注意を必要とする貴重な作品を展示するために、所蔵者の信用ある専門職員、照度・温湿度の管理された専用の展示環境が必要であり、熊本県南部では、それらを備えた本市(博物館)において事業の開催は考えられない。
	②	【市民ニーズ等の状況】 市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていませんか	A 薄れていない B 少し薄れている C 薄れている	A	
	③	【市が関与する必要性】 市が事業主体であることは妥当ですか(国・県・民間と競合していませんか)	A 妥当である B あまり妥当でない C 妥当でない	A	
活動内容の有効性	①	【事業の達成状況】 成果目標の達成状況は順調に推移していますか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	(現状分析等) 本事業は、開館以来、本館施策の目玉として開催してきたもので、八代の歴史・文化の実像解明と、それに関する市内外への情報発信に大きな役割を果たしてきた。展覧会ごとの成果は、刊行する展覧会図録にまとめられて、学校教育や生涯学習の素材、「八代」に関する正確な情報のソースとして活用されている。
	②	【事業内容の見直し】 成果を向上させるため、事業内容を見直す余地はありますか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	
実施方法の効率性	①	【民間委託等】 民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A	(現状分析等) ○貴重な展示資料の館外からの借用は、博物館の施設、運営実績、専門職員配置への信頼に負うものであり、指定管理者制度を導入した場合、現状のような展覧会の、八代での開催は不可能となるだろう。 ○講座・講演会などの開催については、教育普及活動などと連携させ、コストの削減や、より有効な動員計画を検討していきたい。 ○本事業においては、展覧会の経費総額に応じて、その都度、入館料を設定し、受益者負担の適正化を図っている。
	②	【他事業との統合・連携】 目的や形態が類似・関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	B	
	③	【人件費の見直し】 非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費の削減は可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A	
	④	【受益者負担の適正化】 受益者負担に見直しの余地はありますか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	

(Action) 事務事業の方向性と改革改善	
今後の方向性 (該当欄を選択)	<p>不要(廃止)</p> <p>民間実施</p> <p>市による(民間委託の拡大・市民等との協働等)</p> <p>市による実施(要改善)</p> <p>● 市による実施(現行どおり)</p> <p>市による実施(規模拡充)</p> <p>(今後の方向性の理由) 本事業は、八代の歴史・文化に対する市民の誇りを具体的に形に表したのもいえる。市民のみならず、市外からも寄せられる期待に応えることができる展覧会、展示作品を提供するためには、一定規模の財源が必要である。八代地域の人口を考えた場合、それは採算ベースにかなうものではない。そのため、民間に依存すれば、開催は不可能であると考えられる。しかしながら、本事業は、本市の掲げる「文化のかおり高いまちづくり」の根幹に関わる事業であり、今後とも、市の実施により継続していく必要がある。</p>
改革改善内容	<p>今後の改革改善の取組と、もたらそうとする効果</p> <p>展覧会の開催、関連する講座・講演会、その他の催しについては、事業の開催方法、新たな財源の開拓をふくめて、企業や市民団体などと積極的に連携し、ともに手を取り合って事業を作り上げていく、市民協働の実現に向けて努力を重ねていきたい。</p>

改革改善による期待成果					
成果		コスト		外部評価の実施 有：外部評価(市民事業仕分け) 実施年度 平成22年度 (委員からの意見等)	
		削減	維持		増加
	向上		●		
	維持				
	低下				

No	243	事務事業評価票	所管部長等名	教育部長 北岡 博
			所管課・係名	博物館未来の森ミュージアム 学芸係
			課長名	福原 透

評価対象年度	平成 24 年度
--------	----------

(Plan) 事務事業の計画

事務事業名	博物館特別展覧会事業(春季)		会計区分		一般会計			
			款項目コード(款-項-目)	09	—	07	—	05
			事業コード(大-中-小)	02	—	41	—	16
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	基本目標(章)	第2章 郷土を拓く人を育むまち						
	施策の大綱(節)【政策】	文化のかおり高いまちづくり						
	施策の展開(項)【施策】	伝統の継承・活用と八代の文化の創造						
	具体的な施策と内容	芸術・文化活動の推進						
事務事業の目的	すぐれた芸術作品や各地の第一級の文化遺産を紹介することにより、市民の、新たな文化創造への意欲を高揚させ、八代の文化水準の向上を図る。							
事務事業の概要 (全体事業の内容)	各地の美術館・博物館が所蔵する貴重な歴史資料や、絵画・陶磁器といったすぐれた芸術作品などのコレクションを一括して借用、一堂に公開することにより、市民が八代に居ながらにして「本物」にふれ、楽しむ機会を提供する。							
根拠法令、要綱等	社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則							
実施手法 (該当欄を選択)	● 全部直営	一部委託	全部委託	法令による実施義務 (該当欄を選択)	義務である ● 義務ではない			
事業期間	開始年度	合併前		終了年度	未定			

(Do) 事務事業の実施

評価対象年度の事業の内容	
対象 (誰・何を)	内容 (手段、方法等)
市民(幼児から高齢者まで)並びに市外からの来館者	「日本文化の真髄をとらえた写真家一土門拳の古寺巡礼」 会 期 平成24年4月20日(金)～6月3日(日) 開館日数39日
成果目標 (どのような効果をもたらしたいのか)	○財団法人土門拳記念館(山形県酒田市)が所蔵する、昭和の日本を代表する写真家・土門拳が終生取り組んだテーマ「古寺巡礼」シリーズのなかから、寺社や仏像を撮影した作品100点を紹介。 ○会期中には、土門の弟子である写真家・藤森武氏の講演会1回、博物館学芸員による講演会1回を行なうほか、関連企画として、博物館友の会主催による研修旅行を開催して、土門が訪ねた九州の古寺を巡った。
事業開始時点からこれまでの状況変化等	
長びく景気低迷のなかで、日本各地の博物館・美術館は、自館のコレクションの展示による経費削減に努める傾向があり、年々、各地の特色あるコレクションの借用が困難になりつつある。一方、市民からは、さらにグレードの高い作品鑑賞の機会提供を望む声が寄せられている。	

コスト推移		24年度決算	25年度予算	26年度見込	27年度見込	28年度見込
総事業費	(単位:円)	8,475,074	6,599,000	12,150,000	8,150,000	8,150,000
事業費(直接経費)	(単位:円)	5,325,074	3,029,000	9,000,000	5,000,000	5,000,000
財源内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他特定財源	1,373,800	800,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000
	一般財源	3,951,274	2,229,000	7,000,000	4,000,000	4,000,000
人件費		24年度	25年度見込	26年度見込	27年度見込	28年度見込
概算人件費(正規職員)	(単位:円)	3,150,000	3,570,000	3,150,000	3,150,000	3,150,000
正規職員従事者数	(単位:人)	0.45	0.51	0.45	0.45	0.45
臨時職員等従事者数	(単位:人)	0.33	0.33	0.33	0.33	0.33

事業の活動量・実績の数値化	指標名		単位	24年度実績	25年度見込	26年度計画	27年度計画	28年度計画
	①							
	②							
	③							
<記述欄>※数値化できない場合 展覧会活動は、文化財保存の見地から、会期日数は1企画につき30日間程度を限度としており、際限なく延長することはできない。また、展示作品の総点数は、展示作品のジャンルにより大きく異なるため、一様には比較できないなど、本事業について、活動指標を設定、数値化することは困難である。								

もたらそうとする効果・成果の数値化	指標名		指標設定の考え方	単位	24年度実績	25年度見込	26年度計画	27年度計画	28年度計画
	①	展覧会総入館者数	入館者の総数が、文化水準の向上を図るひとつの目安となると考えられるため、指標として設定。	人	4741	2500	6000	3500	3500
	②	入館者の理解度(会場内設置のアンケートに、「よかった」と回答した人数/全回答者数)	アンケートに、「よかった」と回答した人は、展覧会の内容について、ほぼ理解できたと考えられるところから、理解度を示す指標として設定。	%	89.9	92	95	95	95
	③								
〈記述欄〉※数値化できない場合									

(Check) 事務事業の自己評価					
事業実施の妥当性	①	【計画上の位置付け】 事業の目的が上位政策・施策に結びつきますか	A 結びつく B 一部結びつく C 結びつかない	A	(現状分析等) ○貴重な歴史資料やすぐれた芸術作品との、八代での出会いを希望する市民は多く、さらにグレードアップした展示作品の提供を求める声も少なくない。 ○市民のニーズに応えるべく、重要文化財等の作品を展示するためには、専門職員、照度・温湿度の管理された専用の展示環境が必要であり、熊本県南部では、本市(博物館)以外の開催は考えられない。
	②	【市民ニーズ等の状況】 市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていませんか	A 薄れていない B 少し薄れている C 薄れている	A	
	③	【市が関与する必要性】 市が事業主体であることは妥当ですか(国・県・民間と競合していませんか)	A 妥当である B あまり妥当でない C 妥当でない	A	
活動内容の有効性	①	【事業の達成状況】 成果目標の達成状況は順調に推移していますか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	(現状分析等) 開館以来、本事業は、市民の文化的な創作活動の起爆剤となり、あるいは児童生徒や教職員へ鑑賞学習の素材を提供するという重要な役割を担ってきており、今後とも永く継続していく必要がある。
	②	【事業内容の見直し】 成果を向上させるため、事業内容を見直す余地はありますか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	
実施方法の効率性	①	【民間委託等】 民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A	(現状分析等) ○他館からのコレクション一括借用は、市の直営である博物館のこれまでの運営実績、専門職員配置への信頼に負うところが多く、指定管理者制度を導入した場合、現状のような展覧会の開催は困難になると考えられる。 ○講座・講演会などの開催については、教育普及活動などと連携させ、コストの削減や、より有効な動員計画を検討していきたい。 ○本事業においては、展覧会の経費総額に応じて、その都度、入館料を設定し、受益者負担の適正化を図っている。
	②	【他事業との統合・連携】 目的や形態が類似・関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	B	
	③	【人件費の見直し】 非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費の削減は可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A	
	④	【受益者負担の適正化】 受益者負担に見直しの余地はありますか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	

(Action) 事務事業の方向性と改革改善	
今後の方向性 (該当欄を選択)	<p>不要(廃止)</p> <p>民間実施</p> <p>市による(民間委託の拡大・市民等との協働等)</p> <p>市による実施(要改善)</p> <p>● 市による実施(現行どおり)</p> <p>市による実施(規模拡充)</p> <p>(今後の方向性の理由) 市民のニーズに応えることができる展覧会、展示作品を提供するためには、一定規模の財源が必要である。八代地域の人口を考えた場合、それは採算ベースにかなうものではない。そのため、民間に依存すれば、ほとんど開催不可能であると考えられる。しかしながら、本事業は、市民文化形成に重要な役割を果たしているため、今後とも、継続していく必要があり、市による実施・継続が求められるところである。</p>
改革改善内容	<p>今後の改革改善の取組と、もたらそうとする効果</p> <p>展覧会に関連する講座・講演会、その他の催しについては、企業や市民団体などと積極的に共催し、ともに文化活動を作り上げていく、市民協働の実現に向けて努力を重ねていきたい。</p>

改革改善による期待成果			
	コスト		
	削減	維持	増加
成果	向上	●	
	維持		
	低下		

外部評価の実施	有：外部評価(市民事業仕分け)	実施年度	平成22年度
決算審査特別委員会における意見等	(委員からの意見等)		

No	244	事務事業評価票	所管部長等名	教育部長 北岡 博
			所管課・係名	博物館未来の森ミュージアム 学芸係
			課長名	福原 透

評価対象年度	平成 24 年度
--------	----------

(Plan) 事務事業の計画

事務事業名	博物館特別展覧会事業(冬季)		会計区分		一般会計			
			款項目コード(款-項-目)	09	—	07	—	05
			事業コード(大-中-小)	02	—	41	—	17
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	基本目標(章)	第2章 郷土を拓く人を育むまち						
	施策の大綱(節)【政策】	文化のかおり高いまちづくり						
	施策の展開(項)【施策】	伝統の継承・活用と八代の文化の創造						
	具体的な施策と内容	芸術・文化活動の推進						
事務事業の目的	八代の歴史・文化・工芸の多様な事象を、さまざまな作品や資料によって紹介し、城下町八代の魅力を内外に発信する。							
事務事業の概要 (全体事業の内容)	和紙や八代焼などの工芸品、妙見祭をはじめとする祭礼など、城下町八代に育まれた独特の歴史文化を紹介すると同時に、“城下町「やつしろ」のお雛祭り”とタイアップし、本市観光にも資する。							
根拠法令、要綱等	社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則							
実施手法 (該当欄を選択)	● 全部直営		一部委託		全部委託		法令による実施義務 (該当欄を選択)	義務である ● 義務ではない
事業期間	開始年度	合併前			終了年度	未定		

(Do) 事務事業の実施

評価対象年度の事業の内容	
対象 (誰・何を)	内容 (手段、方法等)
市民(幼児から高齢者まで)並びに市外からの来館者	「仏画へのいざない」 会 期 平成25年2月15日(金)～3月24日(日) 開館日数33日
成果目標 (どのような効果をもたらしたいのか)	○博物館では、平成3年秋の開館以来、八代地方の寺社が所蔵するさまざまな資料の調査を進めてきた。成果のうち、仏神像については、平成21年度に「みほとけの貌」という展覧会で紹介した。今回は、仏の姿や、高僧たちの肖像・伝記を描いた絵画作品を集め、八代人の心の風景を探る。 ○会期中に、外部講師による特別講演会1回、担当学芸員による特別講演会1回を開催する。 ○博物館友の会の協力により、ボランティアによる作品解説などを行なう。
事業開始時点からこれまでの状況変化等	
近年の財政削減により、低予算化が避けられないなか、事業の開催に支障が見られることが多くなっている。特に春季・秋季といった主要な展覧会以外においては、会場の監視、広報物作成などの財源不足が顕著となってきている。	

コスト推移		24年度決算	25年度予算	26年度見込	27年度見込	28年度見込
総事業費	(単位:円)	3,828,991	4,767,000	4,500,000	4,500,000	4,500,000
事業費(直接経費)	(単位:円)	538,991	707,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他特定財源	538,991	480,000	500,000	500,000	500,000
	一般財源	0	227,000	500,000	500,000	500,000
人件費		24年度	25年度見込	26年度見込	27年度見込	28年度見込
概算人件費(正規職員)	(単位:円)	3,290,000	4,060,000	3,500,000	3,500,000	3,500,000
正規職員従事者数	(単位:人)	0.47	0.58	0.50	0.50	0.50
臨時職員等従事者数	(単位:人)	0.00	0.00	0.08	0.00	0.08

事業の 活動量・実績の 数値化	指標名		単位	24年度実績	25年度見込	26年度計画	27年度計画	28年度計画
	①							
	②							
	③							
<記述欄>※数値化できない場合 展覧会活動は、文化財保存の見地から、会期日数は1企画につき30日間程度を限度としており、際限なく延長することはできない。また、展示作品の点数は、展示作品のジャンルにより大きく異なるため、一様には比較できないなど、本事業について、活動指標を設定、数値化することは困難である。								

もたらそうとする効果・成果の数値化	指標名		指標設定の考え方	単位	24年度実績	25年度見込	26年度計画	27年度計画	28年度計画
	①	展覧会総入館者数	入館者の総数が、文化水準の向上を図るひとつの目安となると考えられるため、指標として設定。	人	2980	2000	2000	2000	2000
	②								
	③								
〈記述欄〉※数値化できない場合									

(Check) 事務事業の自己評価					
事業実施の妥当性	①	【計画上の位置付け】 事業の目的が上位政策・施策に結びつきますか	A 結びつく B 一部結びつく C 結びつかない	A	(現状分析等) ○「文化のかおり高いまちづくり」を進めるために、ますます重要になっている。 ○八代の歴史・文化に関する企画は、八代が取り組むべきことからである。また、このような事業の開催には、きわめて専門的な知識・経験と、良好な展示環境を必要とし、同時に、事業としての営業益は望めないため、民間の参入は期待できず、それらを備えた市が事業主体となる必要がある。
	②	【市民ニーズ等の状況】 市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていませんか	A 薄れていない B 少し薄れている C 薄れている	A	
	③	【市が関与する必要性】 市が事業主体であることは妥当ですか(国・県・民間と競合していませんか)	A 妥当である B あまり妥当でない C 妥当でない	A	
活動内容の有効性	①	【事業の達成状況】 成果目標の達成状況は順調に推移していますか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	(現状分析等) 本事業は、郷土の歴史・文化を広く市民に伝えるほか、冬季における市の観光政策にも重要な役割を果たしており、今後とも永く継続していく必要がある。
	②	【事業内容の見直し】 成果を向上させるため、事業内容を見直す余地はありますか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	
実施方法の効率性	①	【民間委託等】 民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A	(現状分析等) ○指定管理者制度は、地域における特性を紹介する展覧会活動には、採算性・集客性の面から、特になじまない。 ○講座・講演会などの開催については、教育普及活動などと連携させ、コストの削減や、より有効な動員計画を検討していきたい。 ○平成23年度に本事業開催期間中の入館料を見直し100円値上げしており、現在の経済情勢を考えると、これ以上の値上げは難しい。
	②	【他事業との統合・連携】 目的や形態が類似・関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	B	
	③	【人件費の見直し】 非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費の削減は可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A	
	④	【受益者負担の適正化】 受益者負担に見直しの余地はありますか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	

(Action) 事務事業の方向性と改革改善	
今後の方向性 (該当欄を選択)	<p>不要(廃止)</p> <p>民間実施</p> <p>市による(民間委託の拡大・市民等との協働等)</p> <p>市による実施(要改善)</p> <p>● 市による実施(現行どおり)</p> <p>市による実施(規模拡充)</p> <p>(今後の方向性の理由) 市民のニーズに応えることができる展覧会、展示作品を提供するためには、一定規模の財源が必要である。八代地域の人口を考えた場合、それは採算ベースにかなうものではない。そのため、民間に依存すれば、ほとんど開催不可能であると考えられる。しかしながら、本事業は、市の観光政策にも一定の役割を果たしており、今後とも、継続して、市による実施が求められるところである。</p>
改革改善内容	<p>今後の改革改善の取組と、もたらそうとする効果</p> <p>展覧会に関連する講座・講演会、その他の催しについては、企業や市民団体などと積極的に共催し、ともに文化活動を作り上げていく、市民協働の実現に向けて努力を重ねていきたい。</p>

改革改善による期待成果			
	コスト		
	削減	維持	増加
成果	向上	●	
	維持		
	低下		

外部評価の実施	有：外部評価(市民事業仕分け)	実施年度	平成22年度
決算審査特別委員会における意見等	(委員からの意見等)		

No	183	事務事業評価票		所管部長等名	教育部長 北岡 博				
				所管課・係名	博物館未来の森ミュージアム 学芸係				
				課長名	福原 透				
評価対象年度	平成 24 年度		(Plan) 事務事業の計画						
事務事業名	教育普及活動事業			会計区分	一般会計				
				款項目コード(款-項-目)	09	—	07	—	05
				事業コード(大-中-小)	02	—	21	—	12
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	基本目標(章)	第2章 郷土を拓く人を育むまち							
	施策の大綱(節)【政策】	生涯を通じた学びのまちづくり							
	施策の展開(項)【施策】	生涯学習社会の構築							
	具体的な施策と内容	生涯学習機会および学習情報の提供							
事務事業の目的	講座や講演会などを通して、学ぶことの楽しさを、広く市民に知ってもらう。								
事務事業の概要 (全体事業の内容)	外部講師や内部講師(博物館学芸員)による講座講演会活動の開催。市の出前講座や学校への出前授業をはじめとする各種講座・講演会への講師派遣。常設展示の理解を助けるための、展示解説シートの作成。								
根拠法令、要綱等	社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則								
実施手法 (該当欄を選択)	● 全部直営		一部委託		全部委託		法令による実施義務 (該当欄を選択)	義務である ● 義務ではない	
事業期間	開始年度	合併前			終了年度	未定			

(Do) 事務事業の実施										
評価対象年度の事業の内容										
対象 (誰・何を)					内容 (手段、方法等)					
市民(幼児から高齢者まで)並びに市外からの来館者					○外部講師や内部講師(博物館学芸員)による講座・講演会の開催 ○市の出前講座や学校への出前授業をはじめとする各種講座への講師派遣。					
成果目標 (どのような効果をもたらしたいのか)					○常設の理解を助けるための、展示解説シートの作成。					
市民や来館者が、八代の歴史や文化について幅広い知識を身に付け、同時に、学ぶことの楽しさを体験してもらう。										
事業開始時点からこれまでの状況変化等										
調査研究の蓄積、専門職員の成長により、館外からの講師依頼、指導助言の要請がきわめて多くなっている。また、博物館資料を用いた教職員への歴史・文化講座、小中学校への出張講義による郷土学習の機会も増加傾向にある。										
コスト推移					24年度決算	25年度予算	26年度見込	27年度見込	28年度見込	
総事業費 (単位:円)					6,022,185	6,707,000	5,680,000	5,680,000	5,680,000	
事業費(直接経費) (単位:円)					72,185	1,107,000	80,000	80,000	80,000	
財源内訳	国県支出金				0	0	0	0	0	
	地方債				0	0	0	0	0	
	その他特定財源				8,400	1,039,000	0	0	0	
	一般財源				63,785	68,000	80,000	80,000	80,000	
人件費					24年度	25年度見込	26年度見込	27年度見込	28年度見込	
概算人件費(正規職員) (単位:円)					5,950,000	5,600,000	5,600,000	5,600,000	5,600,000	
正規職員従事者数 (単位:人)					0.85	0.80	0.80	0.80	0.80	
臨時職員等従事者数 (単位:人)					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の活動量・実績の数値化	指標名				単位	24年度実績	25年度見込	26年度計画	27年度計画	28年度計画
	①	講座・講演会の館内における開催回数			回	29	19	25	25	25
	②									
	③									
〈記述欄〉※数値化できない場合										

もたらそうとする効果・成果の数値化	指標名		指標設定の考え方	単位	24年度実績	25年度見込	26年度計画	27年度計画	28年度計画
	①	講座・講演会への参加者数	参加者の数は、知識の普及、市民の学ぶ機会の増加を表すから。	人	1146	700	900	900	900
	②								
	③								
〈記述欄〉※数値化できない場合									

(Check) 事務事業の自己評価					
事業実施の妥当性	①	【計画上の位置付け】 事業の目的が上位政策・施策に結びつきますか	A 結びつく B 一部結びつく C 結びつかない	A	(現状分析等) ○独自の手作り解説シートは、生涯学習、教育現場で有効に活用されている。 ○内外の講師による特別講演会には、市民のみならず、市外の聴講者も少なくない。専門知識を蓄積した職員は、市の出前講座をはじめ、生涯学習の分野で講師を依頼されることが年々増加しており、市内外にわたって、八代の歴史・文化の発信に大きな役割を果たしている。
	②	【市民ニーズ等の状況】 市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていませんか	A 薄れていない B 少し薄れている C 薄れている	A	
	③	【市が関与する必要性】 市が事業主体であることは妥当ですか(国・県・民間と競合していませんか)	A 妥当である B あまり妥当でない C 妥当でない	A	
活動内容の有効性	①	【事業の達成状況】 成果目標の達成状況は順調に推移していますか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	(現状分析等) さまざまな企画が、市民生活の中に根付きつつあり、成果目標の達成状況は順調に推移している。
	②	【事業内容の見直し】 成果を向上させるため、事業内容を見直す余地はありますか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	
実施方法の効率性	①	【民間委託等】 民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A	(現状分析等) ○特別展覧会や常設展示事業、さらには他の、市の諸政策などとも連携しつつ、効率的な事業の開催、運営に努めたい。 ○本事業は、博物館の諸事業のうち、市民や団体、企業などの協力をもっと図りやすく、かつ有効な分野であり、講座・講演会などを中心に、今後とも協働を進めていきたい。
	②	【他事業との統合・連携】 目的や形態が類似・関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A	
	③	【人件費の見直し】 非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費の削減は可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A	
	④	【受益者負担の適正化】 受益者負担に見直しの余地はありますか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	

(Action) 事務事業の方向性と改革改善	
今後の方向性 (該当欄を選択)	<p>不要(廃止)</p> <p>民間実施</p> <p>市による(民間委託の拡大・市民等との協働等)</p> <p>市による実施(要改善)</p> <p>● 市による実施(現行どおり)</p> <p>市による実施(規模拡充)</p>
改革改善内容	<p>(今後の方向性の理由)</p> <p>八代の歴史・文化については、博物館がもっとも充実したスタッフ、学習環境を備えており、今後とも、市が主導する形で、最新の情報提供と学習機会を市民並びに来館者へ提供し続ける必要がある。</p> <p>今後の改革改善の取組と、もたらそうとする効果</p> <p>教育普及活動は、博物館事業の中で、最も市民協働の実現を図りやすく、かつ有効な部分である。現行でも、さまざまな事業を推進しているが、今後、さらに市民、八代市立博物館友の会をはじめとする諸団体、市内外の企業との協賛を図り、ボランティア活動の推進や新たな財源確保に努めていきたい。</p>

改革改善による期待成果				
成果	コスト			外部評価の実施 無 実施年度
		削減	維持	
	向上		●	
	維持			
	低下			決算審査特別委員会における意見等 (委員からの意見等)

No	181	事務事業評価票		所管部長等名	教育部長 北岡 博					
評価対象年度		平成 24 年度		所管課・係名	博物館未来の森ミュージアム 学芸係					
				課長名	福原 透					
(Plan) 事務事業の計画										
事務事業名	博物館常設展示事業			会計区分		一般会計				
				款項目コード(款-項-目)		09	—	07	—	05
				事業コード(大-中-小)		02	—	21	—	10
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	基本目標(章)		第2章 郷土を拓く人を育むまち							
	施策の大綱(節)【政策】		生涯を通じた学びのまちづくり							
	施策の展開(項)【施策】		生涯学習社会の構築							
	具体的な施策と内容		生涯学習機会および学習情報の提供							
事務事業の目的	博物館収蔵品および一般財団法人松井文庫所蔵品をもとに、八代の歴史と文化を、年間を通じてさまざまな角度から紹介する。									
事務事業の概要 (全体事業の内容)	<p>【第一常設展示】 八代の考古・歴史・民俗・美術工芸の各分野について、資料の保存に留意しながら展示替を行ないつつ、紹介する。</p> <p>【第二常設展示】 松井文庫所蔵品のなかから、絵画・工芸・能面・能装束・武具・甲冑など、同文庫が全国に誇る武家コレクションを、年5回程度の展示替を行ないながら紹介する。</p>									
根拠法令、要綱等	社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則									
実施手法 (該当欄を選択)	● 全部直営		一部委託		全部委託		法令による実施義務 (該当欄を選択)		義務である ● 義務ではない	
事業期間	開始年度		合併前		終了年度		未定			

(Do) 事務事業の実施

評価対象年度の事業の内容

対象 (誰・何を)	内容 (手段、方法等)
市民(幼児から高齢者まで)並びに市外からの来館者	【第一常設展示】 八代焼・古文書・考古・金工・仏教美術・和紙・民俗・農具を総合的に展示する。各分野、年4回程度の展示替を行なう。
成果目標 (どのような効果をもたらしたいのか)	【第二常設展示】 松井文庫が所蔵する絵画・能面・能装束・甲冑・漆工芸品など、同文庫が全国に誇る武家コレクションを紹介する。年5回程度の展示替を行なう。
○常設展示を一覧することにより、八代で育まれた、独自の歴史と文化について、その概略を理解してもらう。 ○全国有数の武家コレクションである松井文庫の所蔵品を鑑賞することにより、市民が郷土への誇りと愛着を育む機会とする。	

事業開始時点からこれまでの状況変化等

開館当時に比べ、館が所蔵する展示資料が格段に充実してきた。また、八代に関わる歴史・文化資料についても、市内外の所蔵調査が進んだため、小規模な企画を取り入れた常設展示を行う事が可能になってきた。毎年、文化財の保存に留意しながら展示替を行いつつ、より新鮮な文化情報を来館者に提供している。

コスト推移		24年度決算	25年度予算	26年度見込	27年度見込	28年度見込	
総事業費 (単位:円)		7,746,706	8,818,000	8,800,000	8,800,000	8,800,000	
事業費(直接経費) (単位:円)		2,706,706	2,798,000	2,780,000	2,780,000	2,780,000	
財源内訳	国県支出金	0	0	0	0	0	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他特定財源	551,400	600,000	600,000	600,000	600,000	
	一般財源	2,155,306	2,198,000	2,180,000	2,180,000	2,180,000	
人件費		24年度	25年度見込	26年度見込	27年度見込	28年度見込	
概算人件費(正規職員) (単位:円)		5,040,000	6,020,000	6,020,000	6,020,000	6,020,000	
正規職員従事者数 (単位:人)		0.72	0.86	0.86	0.86	0.86	
臨時職員等従事者数 (単位:人)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の活動量・実績の数値化	指標名	単位	24年度実績	25年度見込	26年度計画	27年度計画	28年度計画
	①						
	②						
	③						
<p>〈記述欄〉※数値化できない場合</p> <p>展示替の回数が活動指標として考えられるが、文化財には、資料保存のため、素材ごとに展示可能な期間があり、これを遵守しつつ展示替えを行なわなければならない。そのため、一定の限られた常設展示スペースにおける展示企画回数には制約があり、際限なく増やすことはできず、場合によっては前年度より減少する場合もある。そのため、本事業において、活動指標としての設定は困難である。</p>							

もたらそうとする効果・成果の数値化	指標名		指標設定の考え方	単位	24年度実績	25年度見込	26年度計画	27年度計画	28年度計画
	①								
	②								
	③								
<記述欄>※数値化できない場合 常設展示のみの利用者数が、成果指標として考えられるが、常設展示と特別展覧会の利用者を完全に区別することができない(特別展覧会期間中は、その料金内で常設展示を見ることも可能)ため、正確な利用者数の把握が困難であり、本事業の成果指標としての設定は困難である。									

(Check) 事務事業の自己評価					
事業実施の妥当性	①	【計画上の位置付け】 事業の目的が上位政策・施策に結びつきますか	A 結びつく B 一部結びつく C 結びつかない	A A A	(現状分析等) ○市民の生涯学習や学校の校外学習、さらには観光客や官公庁の視察等への、市の歴史・文化に関する総合的な情報提供の場として機能している。 ○市民の生涯学習へのニーズの高まりとともに、本事業は、郷土に関する歴史・文化学習の窓口として、その利用頻度が増している。 ○市以外に、事業主体となるものは考えられない。
	②	【市民ニーズ等の状況】 市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていませんか	A 薄れていない B 少し薄れている C 薄れている	A A A	
	③	【市が関与する必要性】 市が事業主体であることは妥当ですか(国・県・民間と競合していませんか)	A 妥当である B あまり妥当でない C 妥当でない	A A A	
活動内容の有効性	①	【事業の達成状況】 成果目標の達成状況は順調に推移していますか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A A A	(現状分析等) 市民並びに一般来館者へ、八代の歴史・文化学習のためのガイダンスとして、有効な情報を提供している。
	②	【事業内容の見直し】 成果を向上させるため、事業内容を見直す余地はありますか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A A A	
実施方法の効率性	①	【民間委託等】 民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A A A	(現状分析等) ○県内には、本事業を遂行可能な民間や団体はなく、民間委託、指定管理者制度の導入は困難である。 ○きわめて専門的な事業内容であり、資料の取り扱いについては個人の財産に絡む問題等もあるため、非常勤職員の対応は、現行では難しい。将来的に、博物館専門職員の退職者等が生まれた段階で、あらためて検討することは可能だろう。 ○現在の経済情勢のなかでは、現行の入館料は適正であり、これ以上の値上げは、いたずらに利用者の減少を招くばかりであると思われる。
	②	【他事業との統合・連携】 目的や形態が類似・関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A A A	
	③	【人件費の見直し】 非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費の削減は可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A A A	
	④	【受益者負担の適正化】 受益者負担に見直しの余地はありますか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A A A	

(Action) 事務事業の方向性と改革改善	
今後の方向性 (該当欄を選択)	不要(廃止) 民間実施 市による(民間委託の拡大・市民等との協働等) 市による実施(要改善) ● 市による実施(現行どおり) 市による実施(規模拡充)
(今後の方向性の理由) 市の歴史・文化の窓口、ショールームとして、今後とも市民並びに来館者に、日常的に新鮮な情報を発信し続けるため、本事業を維持・機能させていく必要がある。	
今後の改革改善の取組と、もたらそうとする効果	
近年、博物館への貴重な資料の寄贈が相次いでおり、それらの調査研究を常設展示活動の内容にも反映させて、さらに新鮮で魅力ある展示活動を行い、八代の歴史・文化の日常的な紹介に努めていかなければならない。	

改革改善による期待成果			
	コスト		
	削減	維持	増加
成果	向上	●	
	維持		
	低下		

外部評価の実施	無	実施年度	
決算審査特別委員会における意見等	(委員からの意見等)		

No	182	事務事業評価票		所管部長等名	教育部長 北岡 博				
評価対象年度		平成 24 年度		所管課・係名	博物館未来の森ミュージアム 学芸係				
				課長名	福原 透				
(Plan) 事務事業の計画									
事務事業名	博物館展示資料調査事業			会計区分	一般会計				
				款項目コード(款-項-目)	09	—	07	—	05
				事業コード(大-中-小)	02	—	21	—	11
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	基本目標(章)	第2章 郷土を拓く人を育むまち							
	施策の大綱(節)【政策】	生涯を通じた学びのまちづくり							
	施策の展開(項)【施策】	生涯学習社会の構築							
	具体的な施策と内容	生涯学習機会および学習情報の提供							
事務事業の目的	八代に伝残するさまざまな歴史資料の調査研究を行い、魅力ある展示・展覧会活動に供する。								
事務事業の概要 (全体事業の内容)	旧八代城主松井家に伝来した近世の古文書群約1万点(一般財団法人松井文庫所蔵)の整理、調査台帳の作成、調査報告書の刊行を中心に行なう。								
根拠法令、要綱等	社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則								
実施手法 (該当欄を選択)	● 全部直営		一部委託		全部委託		法令による実施義務 (該当欄を選択)	義務である ● 義務ではない	
事業期間	開始年度	合併前			終了年度	未定			

(Do) 事務事業の実施										
評価対象年度の事業の内容										
対象 (誰・何を)		内容 (手段、方法等)								
市民並びに歴史研究者や愛好者、大学や博物館等の研究機関		6月下旬に5日間の写真撮影および調書の作成を行ない、250通程度について調査台帳を作る。調査終了分について、年間を通じて文書の解読を行い、年度末に解読の完了した200通程度を収録した報告書を刊行、調査成果を公表する。								
成果目標 (どのような効果をもたらしたいのか)		わが国を代表する近世武家文書である松井家伝来古文書の実像を伝え、あらたな歴史像構築の重要な資料としてもらう。								
事業開始時点からこれまでの状況変化等										
平成6年度から毎年実施してきた本事業は、全体の半ばを越え、平成24年度末に報告書第17冊目を刊行した。松井家伝来古文書は、わが国の近世史研究にとって、きわめて重要な意味を持つもので、八代のみならず日本の宝とも言うべき史料群である。本調査の動向は、全国的な関心を集めており、報告書刊行に対する評価は、博物館への評価となり、展覧会活動時の他館からの借用等に大きく役立っている。また、調査が終了した文書については、適宜、常設展示や企画展示、特別展覧会で市民に紹介している。										
コスト推移					24年度決算	25年度予算	26年度見込	27年度見込	28年度見込	
総事業費 (単位:円)					7,071,449	6,141,000	7,160,000	7,160,000	7,160,000	
事業費(直接経費) (単位:円)					1,261,449	611,000	1,350,000	1,350,000	1,350,000	
財源 内訳	国県支出金				0	0	0	0	0	
	地方債				0	0	0	0	0	
	その他特定財源				50,000	150,000	150,000	150,000	150,000	
	一般財源				1,211,449	461,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	
人件費					24年度	25年度見込	26年度見込	27年度見込	28年度見込	
概算人件費(正規職員) (単位:円)					5,810,000	5,530,000	5,810,000	5,810,000	5,810,000	
正規職員従事者数 (単位:人)					0.83	0.79	0.83	0.83	0.83	
臨時職員等従事者数 (単位:人)					0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の 活動量・実績の 数値化	指標名				単位	24年度実績	25年度見込	26年度計画	27年度計画	28年度計画
	①									
	②									
	③									
〈記述欄〉※数値化できない場合 調査日数が活動指標として考えられるが、他の諸事業との日程上の兼ね合い、指導者の都合、博物館の処理能力もあり、年間5日間程度の調査が限界であり、現状のスタッフでは、活動指標としての設定は難しい。										

もたらそうとする効果・成果の数値化	指標名		指標設定の考え方	単位	24年度実績	25年度見込	26年度計画	27年度計画	28年度計画
	①								
	②								
	③								
<p>〈記述欄〉※数値化できない場合</p> <p>成果指標として、調査した文書の総点数を設定することが考えられるが、文書には、形式、内容によってかなり長短の差があり、一通あたりの調査に要する時間は一定ではない。また、文書によっては、調査時に応急の修復をほどこしながら作業を進める場合もあり、成果を調査点数によって単純に数値化することはほとんど意味がない。</p>									

(Check) 事務事業の自己評価					
事業実施の妥当性	①	【計画上の位置付け】 事業の目的が上位政策・施策に結びつきますか	A 結びつく B 一部結びつく C 結びつかない	A	(現状分析等) 松井家伝来古文書群は、桃山から江戸時代の歴史を考える上で、当時の第一級の史料であり、本事業によって、はじめてその全体像が明らかになりはじめています。年度末に刊行する報告書は、全国的に高い評価を受けているが、難解な古文書の解読結果を活字化し、一般の利用に便を図ったものであり、市民の郷土学習のための、重要な素材としても活用されており、今後の調査結果に大きな期待が寄せられている。
	②	【市民ニーズ等の状況】 市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていませんか	A 薄れていない B 少し薄れている C 薄れている	A	
	③	【市が関与する必要性】 市が事業主体であることは妥当ですか(国・県・民間と競合していませんか)	A 妥当である B あまり妥当でない C 妥当でない	A	
活動内容の有効性	①	【事業の達成状況】 成果目標の達成状況は順調に推移していますか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	(現状分析等) 毎年刊行する調査報告書には、全国的な高い関心と評価が寄せられており、文化のかおり高い城下町八代を代表する事業のひとつとして、今後とも継続していくことが必要である。
	②	【事業内容の見直し】 成果を向上させるため、事業内容を見直す余地はありますか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	
実施方法の効率性	①	【民間委託等】 民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A	(現状分析等) ○本事業を遂行可能な研究機関・大学、民間の事業者は県内になく、事業の民間委託、指定管理者制度の導入は考えられない。 ○本事業報告書の販売価格は、類似の書籍と比較しても適正な価格であり、見直しの余地はない。
	②	【他事業との統合・連携】 目的や形態が類似・関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A	
	③	【人件費の見直し】 非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費の削減は可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A	
	④	【受益者負担の適正化】 受益者負担に見直しの余地はありますか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	

(Action) 事務事業の方向性と改革改善	
今後の方向性 (該当欄を選択)	<p>不要(廃止)</p> <p>民間実施</p> <p>市による(民間委託の拡大・市民等との協働等)</p> <p>市による実施(要改善)</p> <p>● 市による実施(現行どおり)</p> <p>市による実施(規模拡充)</p> <p>(今後の方向性の理由) 本事業は、城下町八代の歴史を、市民こぞって解明していくための重要な基礎事業として、同時に、郷土八代が全国に誇る教育・文化事業として、八代市の方で、継続、完成させていかねばならない。</p>
改革改善内容	<p>今後の改革改善の取組と、もたらそうとする効果</p> <p>現在のスタッフでは、現行の事業スタイルが適正と思われる。今後、職員の拡充などが行なわれない限り、現行の事業体制を維持し、事業を完成させることが重要である。</p>

改革改善による期待成果			
	コスト		
	削減	維持	増加
成果	向上	●	
	維持		
	低下		

外部評価の実施	無	実施年度	
決算審査特別委員会における意見等	(委員からの意見等)		